講義名	（対面）リーダシップ養成Ｂ ★				
科目区分	教養一般				
担当教員	石黒　太／南木　睦彦				
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 ４時限			授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース／2018年度 人間社会学部 人間健康学科／ 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース／2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース／2018年度 人間社会学部 観光学科／				
履修開始年次	１年生	単位数	2	備考	

主題と概要

リーダシップ論等を学び、グループで活動することを通して、自らの特徴を生かしてリーダシップを発揮する力を養う。さらにはその力を、実際に発揮する。
まずリーダシップとは何かを学ぶ。次に講義前半では、2020年度の「自己発見とキャリア開発A」等の「気づきの教育」を振り返り共有した上で、「Ryuka 祭」の実施と関連して独自の展示物等を作成する。講義後半では、2021年１月頃～2021年度にかけて実施される様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成したりする。その中には2021年度の「自己発見とキャリア開発A」のいくつかのプログラムも含まれている。
この科目と共に前期の科目である「リーダシップ養成A」も受講し、「自己発見とキャリア開発」のCAとしての能力向上をしていただくことも期待している。CAとして登録されない場合でも、本学の様々な活動の場面でリーダシップを発揮することを期待している。

到達目標

・自分自身の特徴を生かしたリーダシップを発揮することができる
・「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」の体験や成果を、言葉、文章、図表等で表現することができる
・Ryuka 祭の実施と関連してリーダシップを発揮して活動する
・様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成することができる。

提出課題

様々なワークシートを授業内で作成する。
「自己発見とキャリア開発」等の「気づきの教育」の体験や成果を示したRyuka祭と関連した展示物を作成する。
202１年１月頃～2021年度にかけて実施される様々なプログラムについて、立案したり改善案を作成する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

提出物については、授業中に講評したり返却したりする。

評価の基準

授業への積極的な参加、成果物の出来栄え、Ryuka祭と関連して、この科目で身に付けたリーダシップを発揮したかどうか、を総合して評価する。

履修にあたっての注意・助言他

この科目は基本的には対面で実施する。コロナ禍との関連で対面での授業が実施できない場合は、オンラインのLiveで実施する。
この科目では授業時間外に、Ryuka祭と関連した展示物作成等をグループで実施するので、授業時間外の「学習時間」が相当長くなる。あらかじめ心づもりをした上で受講していただきたい。
また、この科目の受講者には、ぜひ2021年度の「自己発見とキャリア開発」CAとして登録していただきたい。そして、この科目で学んだリーダシップを生かして、2021年の春休み中に入学前教育の「先輩交流」等の担当や運営補助をお願いしたい。
またさらに2021年度の「自己発見とキャリア開発」のCAとしては、「先輩交流」を担当すると共に、担当教員のクラス運営への協力をお願いしたい。また、一部のプログラムでは、ファシリテータとして活躍していただく可能性もある。

教科書

.使用しない.

プリント資料及び参考文献

授業中に配布する

授業計画

基本的には対面授業で実施する予定です。
シラバス執筆時の予定であり、受講生数等により変更する可能性があります
１．キックオフ（講義の狙い、アイスブレイク、チーム形成）
２．リーダシップとは何か
３．気づきの教育振り返り・共有
４．Ryuka祭関連展示立案チーム活動１
５．Ryuka祭関連展示立案チーム活動２、中間発表・相互評価
６．Ryuka祭関連展示立案チーム活動３
７．Ryuka祭関連展示立案チーム活動４
８．Ryuka祭展示立案最終発表、Ryuka祭前日～当日予定作成

授業時間外活動：Ryuka祭関連展示前日等準備、オンライン来訪者への説明等の活動をする可能性があります

９．Ryuka祭振り返り、各種のプロジェクトの説明、チーム形成
１０．プロジェクトごとのチーム活動１
１１．プロジェクトごとのチーム活動２
１２．チーム活動結果中間発表と相互評価
１３．プロジェクトごとのチーム活動３
１４．プロジェクトごとのチーム活動４
１５．プロジェクトごとの計画最終発表、全体まとめと今後の予定の確認

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
○	エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時間外に、Ryuka祭関連展示の作成をするなど、チームごとに打ち合わせ等の時間が必要になる可能性が高い。この様な事情で、授業時間外の「学習時間」が相当長くなる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この授業はグループワークを通じて、受講生間並びに受講生と担当教員間で相互啓発的な形で進めます。オンライン授業となった場合も、同様にグループワークを実施します。

実務経験の有無及び活用

備考